



4年生のリレー実践

1学期そして運動会へ

【1学期 実践のねらい】

私の勤務する学校は、全学年が単学級であり、互いによく見知った関係で仲は良いが、互いの印象が固定化してしまっている部分も大きい。表面的にはやさしいが、実は遠慮し合って気持ちをおしこめていて、ストレスを吐きだす場がない子がいるのではないかと。4年生の担任となり、そんなことを感じた4月だった。また、障がいをもった子の存在もあってか、「勝ちにこだわらないのがいいこと」みたいな空気と能力の大きな差から、勝ちや技術の向上へのあきらめを感じた。子ども同士が本音でぶつかり、がんばったらOK・がんばればできる、ではなく、うまくなるための視点をしっかりともたせたいと思った。

そういった点をふまえ、最初の体育の授業としてリレーを教材に選んだ。リレーの技術学習におけるバトンパスの技術向上は、チーム全体のタイム短縮という目に見える形で表れるため、タイムへのこだわりを全ての子がもちながら、ポイントを見つけて熱中していけるのではないかと考えた。また、グループ学習が必ず必要になり、グループの中で一つの目標に向かって、本音でつながっていくきっかけにしていけるのではと考えた。

【学習のねらい】

- ・受け手も渡し手も、できるだけスピードを落とさずにバトンパスをすることができる。
- ・スピードを落とさずにバトンパスをするためのしくみ、それがタイム短縮につながることをわかる。
- ・リレーを楽しむためには、タイムと勝負が大きな要素であることに気付き、それができるためには均等な力のチームづくりが必要であることがわかる。

【学習の全体計画】(全 16 時間) ※40m×4 の周回リレー

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1・2・3…グループづくり→1回目・2回目のリレー | 4…グループづくりについて話し合い |
| 5…50m走(10mラップ)の計測 | 6…タイムをもとにグループづくり |
| 7…ためしのリレー | 8・9…GOマークおにごっこ |
| 10・11…GOマーク走 | 12・13…リレーゲーム |
| 14・15…リレーの習熟 | 16…まとめ(リレー大会) |

【授業の様子】

初めのチーム作りでは、タイムではなく子どもたちのイメージに頼って作ったチームだったので、2回目には文句を言う子が出始めた。チームの力が均等になっていないことをタイムや順位から話し合い、対等に勝負を楽しむためには、個人のタイムをもとにしたチーム作りが必要であることに子どもたち自身気付くことができた。そして50mタイムを計測し、チームを組んで目標タイムを設定し、どうしたらタイムが短縮できるのか？ということについて考えさせていった。GO

マークおにごっこ・GOマーク走と練習する中で、子どもたちは「走りながらのバトンパス」を目指し始めるが、それがなぜ必要なのかをきちんと理解してほしくて、授業後などに話し合っていた。初めは何となくでしかなかった『バトンパスを成功させる』ということが、タイム短縮には何が必要なのかを理解した子がグループを引っ張る形で、バトンパスの練習がすすんでいった。そうして、周回リレーの中で足を止めずほぼ全力で走りながらのバトンパスが少しずつできてきた実感が子どもたちに出てきて、またそれが実際にタイムに反映されることで、バトンがただ渡せるだけでない『うまいバトンパス』ができるかどうかを重視している様子が見え始めるようになっていった。子どもたちの記述から一部紹介する。

☆バトンパスがちょっとうまくなったと思う。もっと(タイムを)はやくするためにはバトンパスの練習をもっとしたい。

☆バトンパスをミスしたらぬかされるけど、バトンパスがうまいければ勝つかくりつが上がる。今回は相手が少しミスしたところこっちはうまいったから勝てた。

記述にあるように、バトンパスがタイムはもちろんのこと、勝負にも欠かせないと感じ、うまくなっていくことで勝負も楽しむことができると実感できたのだろう。がんばれば勝てる、走れたからいいという記述は、途中から見られなくなり、バトンパスがうまいかずにタイムがのびなかつたくやしさを、何が足りなかったのかを自分たちで分析する目が出てきていた。

最後は『リレー大会』を行い、クラス行事として大会長と班長達が中心となって、運営もできるだけ子どもたちでつくっていった。記録はというと、8グループ中7グループが目標タイムを上回ることができた。(上回れなかった1グループも、全員そろって練習をスタートしたのが1か月ほどおくれたが、目標タイムまであと0,5秒という記録まで縮めることができた。)表彰はされなかったチームも、自分たちの記録を喜び合っていた。

2学期 運動会に向けた取り組みの中での実践

夏休み明けに全員に「2学期やってみたいこと」を書かせた中で「もう一度リレーがしたい。」「リレー大会がしたい。」という声があった。今年から運動会に学年種目が新設されたことで、4年生だけでの種目ができることを伝えると、全員一致でリレーに決まった。中心になって進める『担当』となった子がさっそく計画案を作り出し、「タイム計測→チーム分け→GOマークおにごっこ→GOマーク走→バトンパス→周回リレー チェック」という計画を見せに来た。そしてタイムをもとにしたチーム作りも子どもたちが行き、表現の練習の合間など短い時間での練習であったが、自分たちで確認や反省をしながらすすめていった。練習では、私から提示することなく、子どもたちが初めから「走りながらのバトンパス」を目指している姿があった。時間の関係で周回リレーは直前までできなかったが、1学期の実践が、一つ一つの練習は何を意味しているのかという見通しをもたせてくれていたように感じた。「なぜ走りながらのバトンパスなのか」ということについての理論も、実際に1学期にやってみたことで、わかった子が多くなっていくことも大きかった。運動会では声だけに頼っていたことが盲点となり失敗が出てしまったことは私の反省点であるが、子どもたちはもう一度最後のリレー大会を行って、練習してきたことを出し切り、自分たちのバトンパスがうまくなったことを楽しみながら勝負をも楽しんでいる様子があった。